

# 女性医師にとっての消化器病学

**浅香正博**

北海道医療大学学長

**塩谷昭子**

川崎医科大学消化管内科学教授

**浅香** 本日は川崎医科大学消化管内科学教授の塩谷昭子先生をお招きし、「女性医師にとっての消化器病学」をテーマにお話を伺いたいと思います。まずは塩谷先生の歩みを振り返ってみたいと思います。ご出身はどちらですか。

**塩谷** 出身は和歌山県和歌山市です。小学校から大学まですべて地元の公立校で自宅から通学し、学費の面では親孝行であったかな、と感じています。

**浅香** 医師を志したきっかけはどのようなものですか。

**塩谷** 実はもともとは医師でなくてもよかったのです。母が大阪の出身で、和歌山の田舎の封建的な家に嫁いで家族に仕える生活を送っていたのですが、もともとは医師になりたかったそうです。本当はキャリアウーマンとして社会に貢献したかったという話をよく聞かされていて、私自身もキャリアを生かし自立した女性になりたいと考えるようになりました。

私自身は医師でも弁護士でも建築士でも、自立できる仕事なら何でもいいと考えていたのですが、高校の担任の先生が「医者になったらどうか」と勧めてくださいました。母に相談すると「では地元の医学部に行きなさい」と言われ、父にも医学部を勧められたので和歌山県立医科大学に入学しました。そういった経緯なので、最初は「患者さんの命を助けたい」といった崇高な志をもって医師を志望したわけではありませんでした。

**浅香** キャリアウーマンとして自立した女性になりたいというの、やはり立派な動機だと思います。医師になって消化器を選んだことには理由があったのですか。

**塩谷** これも実は、最初から消化器を選んだわけではありませんでした。最初は循環器内科に入局しました。当時は救急医療およびチーム医療に興味があり、循環器内科で心筋梗塞